



平成15年4月期 平成14年5月1日～平成15年4月30日

事業報告書

自然

健康

自然が好きです

Our Vision and Value

安全

良いデザイン

おいしい

目次

株主の皆様へ	1
営業の概況	2
トピックス	4
新製品の紹介	9
財務データ	10
単独セグメントデータ	13
連結財務諸表	14
単独財務諸表	17
会社の概要	18
株式の状況	19
役員 / 株主メモ	20

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より格別のご愛顧とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、伊藤園グループの平成15年4月期(平成14年5月1日から平成15年4月30日まで)の営業の概況をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期におけるわが国経済は、人員整理等の合理化による企業収益の改善を受け、設備投資が持ち直しているものの、高水準の完全失業率を背景に、個人消費は低迷し、デフレ、雇用対策のみならず、米国経済、株価、SARSの影響等、企業を取り巻く環境は、厳しく、先行き不透明なまま推移してまいりました。

このような状況のなかで、当社は「お客様第一主義」の経営理念に基づき、積極的な新製品の開発と、営業力の強化を図るため、お取引先の増加、サービスの強化、品質管理の徹底、および原価低減、経費削減等に努め、事業の効率化を図り、環境問題にも十分配慮しつつ、経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

具体的な経営施策といたしましては、株式会社伊藤園において、平成14年9月に資産効率を高めるための自己株式取得を実行、また、役員報酬制度の改革およびストックオプションを実施いたしました。さらには、健全な財務体質をめざし企業の将来への収益確保と従業員の自己責任に基づく老後の生活安定化を図るため、厚生年金基金の代行部分を国に返上し合わせて厚生年金基金を解散した上で、平成15年2月より確定拠出年金制度(日本版401K)を導入いたしました。

また、期末の利益配当金につきましては、前期と比べ1株につき3円増配し、1株につき23円とし、平成15年1月15日に実施いたしました中間配当金1株につき20円とあわせ、合計1株につき43円の年間配当金とさせていただきます。

今後も「お客様第一主義」に徹し、お客様に満足いただける製品の開発とサービスの向上に努め、「お~いお茶」ブランドの強化に加え、各ブランドの一層の強化を図り、更なる業績の向上に全社を挙げて邁進するとともに、株主の皆様への利益還元にも積極的に取り組んでまいり所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年7月

営業の概況

1 営業の経過および成果

飲料業界におきましては、缶・ビン製品からペットボトル製品への移行が進み、なかでも小型ペットボトル製品が市場を牽引いたしました。天候面では、夏季に、地域的、一時的に恵まれたことや、秋季から冬季にかけ低温であったことなど、コールド飲料、ホット飲料にとって好条件もありました。しかしながら、7月の需要が前年の猛暑の反動で大きく落ち込んだほか、下半期は寒暖の変動が大きく、休日に雨の日が続くなど、天候不順に左右されました。

そのなかで、個人消費の低迷を背景に、各企業間の価格競争が展開され、茶系飲料を中心とする無糖飲料など、一部の成長市場では市場占有率獲得の競争が激化しております。

当期の連結業績につきましては、売上高は2千148億8百万円(前期比4.9%増)となりました。

利益面につきましては、営業利益は156億9千4百万円(前期比3.6%増)、経常利益は148億7千9百万円(前期比3.2%増)といずれも増益を達成することができました。なお、企業年金制度の改革を行い、厚生年金基金を解散し、確定拠出年金制度を導入したため、特別利益に退職給付引当金取崩額4億9千4百万円を計上いたしました。また、特別損失では、投資有価証券に関連して発生した評価損および売却損が前期に比して、10億7千9百万円減少いたしました。

この結果、当期純利益は80億3百万円(前期比18.5%増)となりました。

<茶葉(リーフ)関連事業>



平成14年度の緑茶(荒茶)の国内生産量は、8万4千2百トン(前年比6.8%減)と大幅な減産となりました。また、緑茶の輸入量も、1万1千7百トン(前年比33.5%減)と前年の反動を受け、大幅な減少となりました。これは前年度からの繰越在庫や、緑茶飲料市場での競争激化により、新製品用に増加した飲料(ドリンク)用原料の需要が鈍化したため、市場が調整に向かったことが原因であります。

一方需要面におきましては、ティーバッグ製品は増加しているものの、不況によりギフト用製品が落ち込み、購買志向が、茶葉(リーフ)から飲料(ドリンク)へ移行しており、減少傾向にあります。このような状況のなかで、当社は原料選定から製造・物流にいたるまで徹底的に品質管理を行い、多様化するお客様のニーズに沿った製品開発を行いました。ティーバッグ製品では、「お~いお茶」カップ用20袋シリーズのフィルター改良により、味、水色の改善を図りました。また、包装茶「お~いお茶」シリーズのリニューアルも行い、ブランド強化を図りました。

この結果、茶葉(リーフ)関連事業の売上高は281億円(前期比0.9%増)となりました。

<飲料(ドリンク)関連事業>



平成14年度の飲料市場は、個人消費の低迷により、各社の価格、販売促進における激しい競争が繰り広げられました。しかしながら、市場全体では、数量ベースで前年並み、金額ベースでマイナス成長となった模様であります。

このような状況のなかで、当社は、「自然・健康・安全・良いデザイン・おいしい」を製品開発の基本理念に、積極的に新製品の開発に取り組みました。また、トータルマーケティングのもと、積極的な販売を推進し、一層のブランド強化に努めました。

緑茶飲料ナンバーワンブランド「お~いお茶」につきましては、平成14年5月のリニューアルを機に、「これが、お茶。お~いお茶」キャンペーンを展開し、「自然そのまま、無香料、無調味」の全国的な浸透を図りました。また、季節ごとの「お~いお茶」も市場に定着した結果、「お~いお茶」ブランド全体の売上高は877億4千4百万円(前期比12.3%増)、販売数量は5,000万ケース(前期比13.6%増)と大きく伸長し、この結果、日本茶飲料の売上高は991億5千8百万円(前期比13.3%増)と大幅な増収となりました。

ホット飲料対応のペットボトル製品につきましては、飲料加温器(ホットウォーマー)の積極的な導入により大幅に伸長し、単に冬季の商品ではなく、通期定番商品となりました。

その他の飲料につきましては、中国茶飲料で、新製品「烏龍新茶」を小型・大型ペットボトル製品で発売し、品揃えを強化いたしました。紅茶飲料につきましても、小型ペットボトル製品が自動販売機を中心に、大きく伸長いたしました。

この結果、飲料(ドリンク)関連事業の売上高は1千844億8千4百万円(前期比6.2%増)となりました。

<その他の事業>

その他の事業におきましては、売上高は22億2千3百万円(前期比29.3%減)となりました。

2 連結売上高の内訳

単位:百万円

	平成13年4月期		平成14年4月期		平成15年4月期	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
茶葉(リーフ)関連事業						
緑茶	23,532	12.2%	22,790	11.1%	22,667	10.6%
ウーロン茶	2,013	1.1	1,913	0.9	1,906	0.9
その他	2,729	1.4	3,153	1.6	3,526	1.6
茶葉(リーフ)関連事業計	28,275	14.7	27,857	13.6	28,100	13.1
飲料(ドリンク)関連事業						
日本茶	78,368	40.7	87,509	42.8	99,158	46.2
中国茶	17,425	9.0	17,792	8.7	17,532	8.2
野菜	28,134	14.6	27,469	13.4	22,965	10.7
果実	9,686	5.0	10,511	5.1	11,989	5.6
コーヒー	13,567	7.0	15,294	7.5	15,481	7.2
紅茶	4,647	2.4	5,979	2.9	7,302	3.4
炭酸	2,434	1.3	2,287	1.1	2,261	1.0
その他	6,828	3.6	6,882	3.4	7,792	3.6
飲料(ドリンク)関連事業計	161,092	83.6	173,727	84.9	184,484	85.9
その他の事業	3,341	1.7	3,145	1.5	2,223	1.0
合計	192,709	100.0	204,730	100.0	214,808	100.0

3 設備投資および資金調達の状況

当期における設備投資額は、6億8千6百万円であります。その主なものは、原料加工のための工場建物および機械設備の取得であります。

なお、これらにともなう資金はすべて自己資金にて充當いたしました。

4 会社が対処すべき課題

飲料業界におきましては、長引く経済不況のなか、市場規模は前年並みとなりました。そのなかで、茶系飲料などの無糖飲料市場を中心に、成長カテゴリーにおきまして、企業間の

生存競争が一層激化しております。

当グループといたしましては、緑茶飲料ナンバーワンブランド「お～いお茶」および緑茶飲料市場全体の拡大に取り組んでまいります。その他のブランドにつきましても、ルートセールスを中心に、積極的に販売の強化を図ってまいります。

また、食品、飲料製品の安全性、品質管理体制、環境問題への取り組み姿勢など、企業経営の在り方に消費者の厳しい目が向けられております。

当グループでは、品質管理、環境問題に積極的に取り組んでおります。当社はすでに、環境マネジメントシステムに関する国際規格「ISO14001」の認証を取得し、品質マネジメントシステムに関する国際規格「ISO9001」

の認証も取得しております。

当期におきましては、伊藤園産業株式会社から、平成15年3月に、「ISO9001」の認証を取得いたしました。当社では、これまでの環境問題への取り組みを、初めて「環境報告書」として取りまとめ、ホームページに掲載したほか、茶殻を建材用繊維板として再利用する技術開発なども行いました。

当グループといたしましては、経営理念であります「お客様第一主義」に基づき、地域に密着した営業拠点の充実を行い、ルートセールスを中心に一層の販売強化、ブランド強化を図っていく所存であります。

同時に、消費者の皆様にご満足、ご安心いただける製品の提供を行い、更なるサービスの向上に努めてまいります。

拡大する営業基盤

現在、飲料販売の主要チャネルのひとつである自動販売機の市場は減少傾向にあり、飽和状態にあるとも言われています。そのなかで当社は平成15年4月期には純増で13,037台を設置し、総計で91,954台となりました。

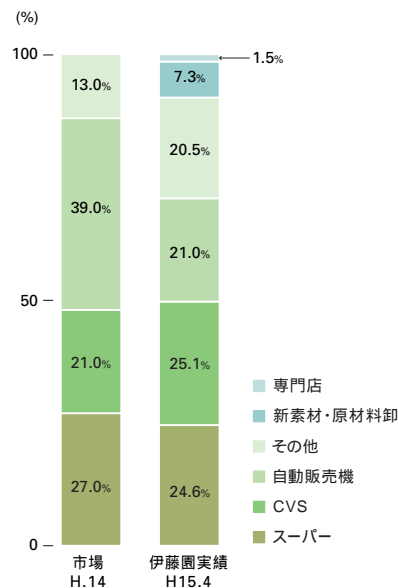
また、効率性を高めるための手段としてカルピス株式会社と自動販売機による製品相互販売に関する提携をしました。平成15年6月1日より、当社からは緑茶飲料のNo.1ブランドである「お～いお茶 緑茶」340g缶と麦茶飲料市場でトップシェアを占める「天然ミネラルむぎ茶」340g缶を、カルピス株式会社からは平成14年5月よりすでに販売している「エビアン」330mlペットボトルに加え、「アミノカルピス」340g缶を、それぞれの自動販売機で販売しております。これにより1台当たりの売上が増加することが期待されます。

さらに、平成15年5月1日より組織改革を行い、営業組織を見直しました。スピー

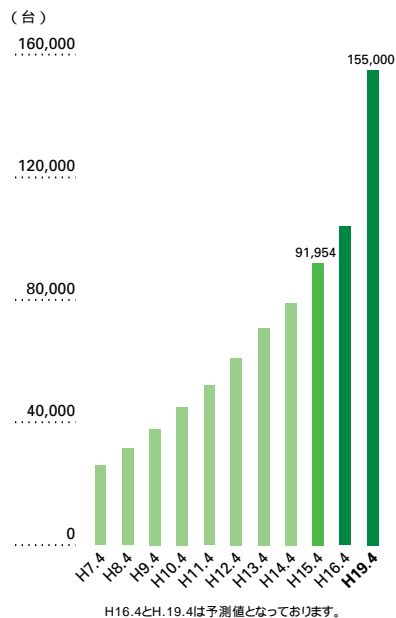
ドの重視を求め、既存顧客の強化として広域流通営業本部、新規顧客の強化として広域法人営業本部を新設し、販売チャ

ネルを充実させていきます。そして今後も営業の一層の強化を目指していきます。

当社及び市場における販売ルート別売上構成比



自動販売機設置台数の推移



「お～いお茶」 ついに5,000万ケース達成

昭和60年の発売以来19年目で「お～いお茶」は、平成15年4月期においてメガブランドの目安と言われる年間販売数量5,000万ケースをついに達成しました。浮き沈みの激しい飲料市場の中にあって、消費者の緑茶に対する認識は「急須で入れたお茶」といった緑茶本来の価値へ回帰している背景もあり、緑茶に価値を見出し、常にバイオニアとして新たな提案を続けてきた当社の姿勢が評価されたものと思われます。今後とも当社は「お～いお茶」を、日本文化を代表する飲料ブランドとして、緑茶の魅力とともに、日本国内におきましては更なる販売強化、そして世界に向かっては緑茶飲料の新たな存在として広めていきたいと考えております。

今年も夏季の飲料の最需要期に向け



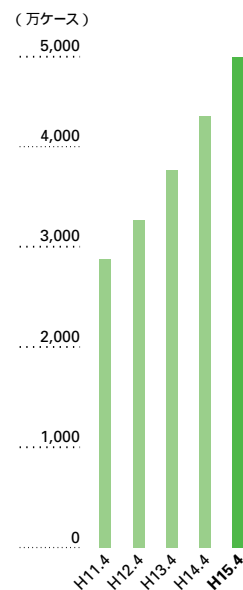
て、昨年に引き続き「お～いお茶」のプロモーション活動を平成15年6月7日、8日に大々的に行いました。若者の街であり、流行の発信源である渋谷の109スクエアを中心に、渋谷一面を「お～いお茶」のポスターや街頭大型ビジョンで覆い尽くしたり、超プレミアムで数量限定のお茶犬やお茶猫のデザイン缶を配布したり、渋谷道玄坂で謎解き巡りのクイズラリーをするなど数々のプロモーション企画を実施し、渋谷ジャックを繰り広げました。

また平成15年6月2日から1ヶ月間、JR中央(快速)線では初めてとなる「車体広告電車」に「お～いお茶」が登場し、車両1編成分まるごと「お～いお茶」広告で埋め尽くし、目にも鮮やかなグリーンラベルで彩りました。今後さらに、JR山手線をは



じめ全国の主要電車でもお目見えすることになります。また米国においても、ITO EN (North America) INC.より「TEAS' TEA」の本格的な販売を行ってまいります。

過去5年間の「お～いお茶」
販売数量推移



機能性飲料の強化

現在、機能性飲料の分野に注目が集まっており、特定保健用食品市場も平成10年には1,658億円の市場規模でありましたが、平成13年には4,121億円と2倍強の規模となり、今後もますます拡大が期

待されます。そのなかにおいていち早くこの市場の成長性に注目した当社では、飲料事業の柱のひとつと考え、現在までに、「ナタデココヨーグルト味」をはじめとした製品ラインアップを

充実してまいりました。今後もこの分野を強化し、健康を意識した製品づくりに努めてまいります。

機能性飲料の紹介

特定保健用食品



食品に含まれる特定成分の効果を動物実験、ヒト試験などの結果をもとにメーカーが申請し、審査を経て厚生労働省が認定します。

栄養機能食品



厚生労働省より指定された栄養素を対象に、含有量の上限值内であれば、メーカー責任で健康表示が可能です。

その他の機能性飲料





第十四回

『お～いお茶 新俳句大賞』

俳句は日本の伝統文化ですが、季語や五・七・五の定型といった従来の俳句の決まりごとにこだわらず自由に表現できるのが新俳句です。新俳句大賞は、缶入り緑茶という世界初の“新しい”飲料である「お～いお茶」の発売とともに平成元年に誕生しました。この新俳句大賞は、日本文化を継承しつつ独自のスタイルを築き上げた画期的な俳句革命とも言われております。

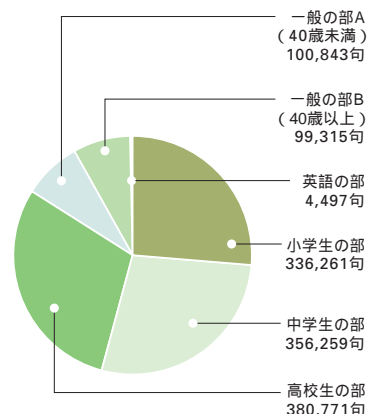
今年で第十四回を迎えましたが、年々、認知度、知名度も高まり、応募総数は過

去最高の127万7,946句になりました。また、非常に特徴的であるのが学生からの応募が全体の8割以上を占めているという点であります。これは、学校で新俳句を国語教育の教材として取り入れられているからです。学生にとっても日本の伝統文化を再確認し、コンテストへの参加が学習意欲を高めることにも役立っていると思われまます。また世界32カ国からも応募があり、国際的な評価も受けている世界的にも最大の俳句コンテストであります。当社の『お～いお茶 新俳句大賞』

は従来の俳句に新しい風を吹き込み、緑茶とともに現代の日本に「伝統文化を発展させる」という意味で大きな意義があると言えます。

受賞作品は「お～いお茶」のパッケージに順次載せていきます。

文部科学大臣奨励賞	水中の光を編んで平泳ぎ
小学生の部 大賞	鉛筆をけずれば森の木のにおい
中学生の部 大賞	目白鳴く祖父窓ぎわに長く立つ
高校生の部 大賞	グローブで太陽かくす夏の試合
一般の部A(40歳未満)大賞	駆け上がるたびに広がり山桜
一般の部B(40歳以上)大賞	春の波ここから海がめくれそう
英語俳句の部 大賞	Lone heron turns its back on the ice catching sunrays .
	日本語訳 背を向けて 氷上の鷺 陽を受ける



「茶配合ボード」を開発 (特許出願中)

近年、緑茶飲料市場が拡大するなか、当社は確固たるNo.1市場シェアを占めております。それに比例して緑茶の消費需要が高まる一方で、生産工程で排出される茶殻も増加し、この処理が問題となってきております。実際に茶殻は水分含有量が高いため放置しておくと衛生上の問題が生じるため、それを解決する方法を研究しておりました。そしてこの度、繊維板の製造工程に水分を含んだままの茶殻を配合することにより、抗菌性・消臭性をもつ茶特有の機能をボード表面および内部に固定することに成功しました。また、インシュレーションボードに関しましては、飲料残渣を利用した商品としてエコマークの認定を受けております。

「茶配合ボード」をはじめとした環境配慮型製品の研究開発に積極的に取り組むことにより、環境負荷を低減するとともに、処理コストの削減にもつながると考えております。



(製品)

(用途)

(左)ハードボード

車のパネル、ベッド等の敷板、
フローリングの下地材等

(中)インシュレーションボード

畳材、床下材、屋根下地材等

(右)MDF(中繊維板)

家具、内装材、テーブル等

新製品の紹介

ワンポットシリーズ

緑茶(左端)

ほうじ茶(中央左)

中国茶ティーバッグシリーズ

ジャスミン茶(中央右)

ハーブ&ウーロン茶(右端)



平成15年3月17日発売

実のある果汁 本搾り

グレープフルーツ(左)

オレンジ(右)



(左)平成15年5月26日発売

(右)平成15年2月24日発売

500gペットボトル

充実野菜

緑黄色野菜ミックス(左)

緑の野菜

モロヘイヤ&果実ミックス(右)



平成15年3月24日発売

930gペットボトル

そば茶シリーズ

純そば茶 500ml ペットボトル(左)

ティーバッグ 14袋(中)

そば粒 150g(右)



平成15年4月上旬発売

お~いお茶 氷冷茶



平成15年6月16日発売

500mlペットボトル

充実夏野菜 スタミナ野菜



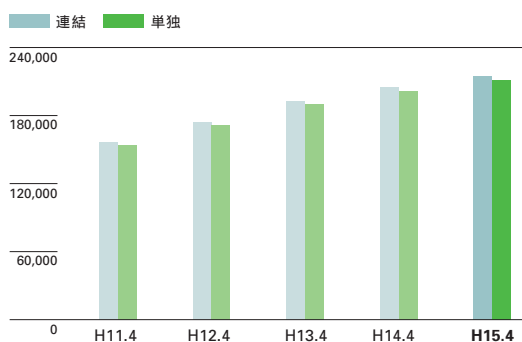
平成15年5月12日発売

930gペットボトル

財務データ

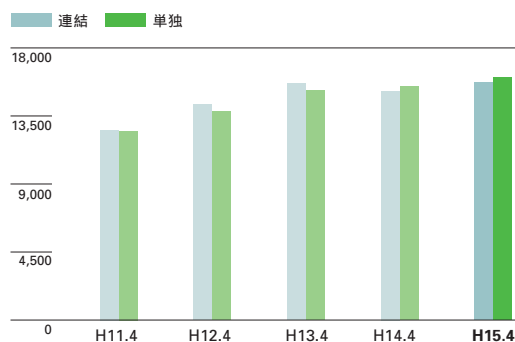
売上高

単位:百万円



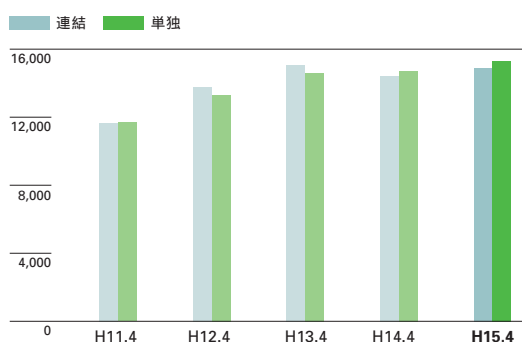
営業利益

単位:百万円



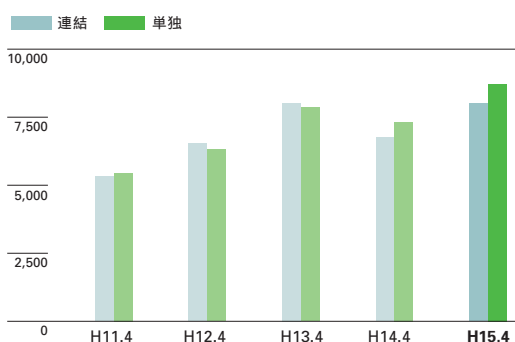
経常利益

単位:百万円



当期純利益

単位:百万円

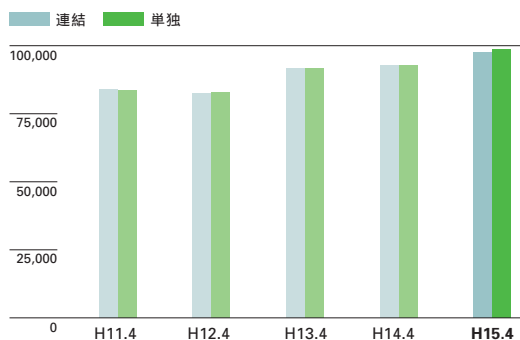


単位:百万円

	平成11年4月期		平成12年4月期		平成13年4月期		平成14年4月期		平成15年4月期	
	連結	単独	連結	単独	連結	単独	連結	単独	連結	単独
売上高	156,557	153,957	173,966	171,628	192,709	190,242	204,730	201,911	214,808	211,495
営業利益	12,568	12,507	14,266	13,788	15,666	15,185	15,148	15,439	15,694	16,038
経常利益	11,668	11,677	13,790	13,317	15,068	14,598	14,417	14,733	14,879	15,306
当期純利益	5,325	5,444	6,530	6,320	8,017	7,852	6,753	7,328	8,003	8,723

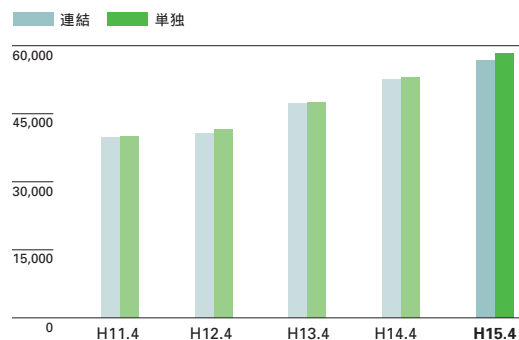
総資産

単位:百万円



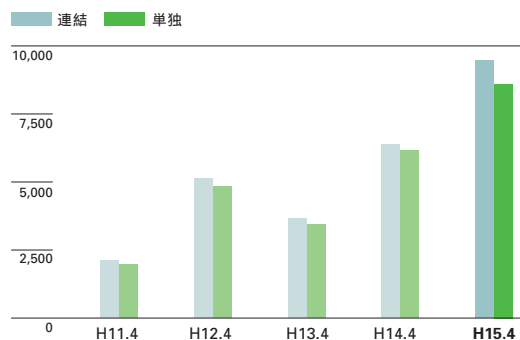
株主資本

単位:百万円



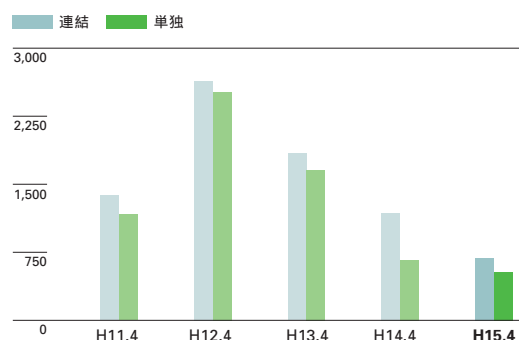
フリーキャッシュ・フロー

単位:百万円



設備投資額

単位:百万円



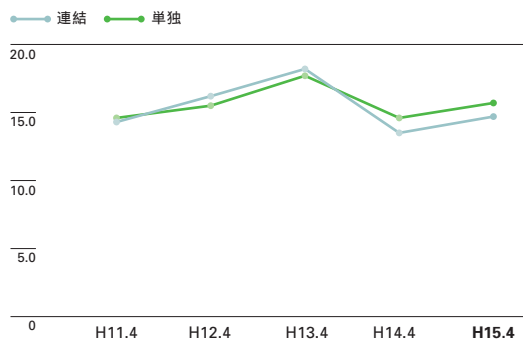
単位:百万円

	平成11年4月期		平成12年4月期		平成13年4月期		平成14年4月期		平成15年4月期	
	連結	単独	連結	単独	連結	単独	連結	単独	連結	単独
総資産	83,806	83,599	82,386	82,680	91,645	91,539	92,773	92,928	97,726	98,839
株主資本	39,801	39,945	40,783	41,458	47,310	47,491	52,508	53,090	56,679	58,245
フリーキャッシュ・フロー	2,111	1,979	5,143	4,848	3,669	3,448	6,371	6,155	9,467	8,599
設備投資額	1,377	1,167	2,636	2,514	1,839	1,655	1,180	666	686	532

フリーキャッシュ・フロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー

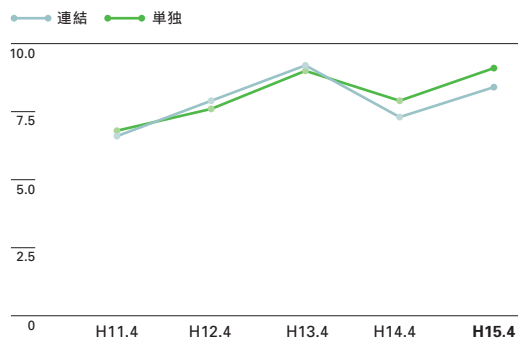
株主資本利益率(ROE)

単位: %



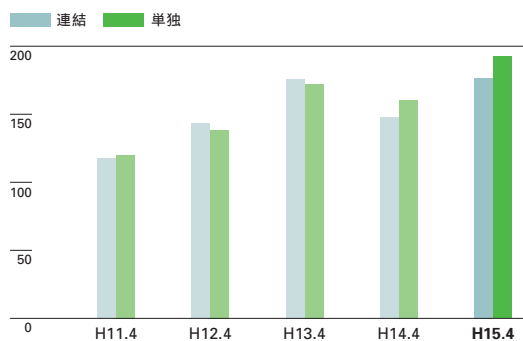
総資産利益率(ROA)

単位: %



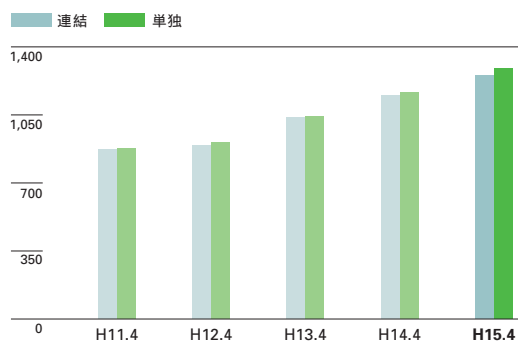
一株当たり当期純利益

単位: 円



一株当たり株主資本

単位: 円

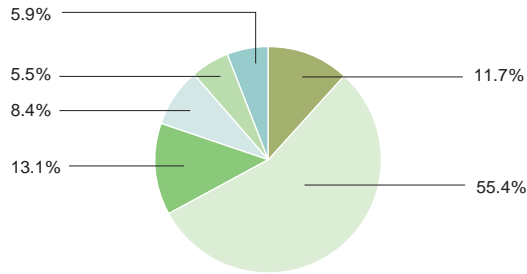


	平成11年4月期		平成12年4月期		平成13年4月期		平成14年4月期		平成15年4月期	
	連結	単独	連結	単独	連結	単独	連結	単独	連結	単独
株主資本利益率(ROE) (%)	14.3	14.6	16.2	15.5	18.2	17.7	13.5	14.6	14.7	15.7
総資産利益率(ROA) (%)	6.6	6.8	7.9	7.6	9.2	9.0	7.3	7.9	8.4	9.1
一株当たり当期純利益 (円)	117.44	120.07	143.18	138.59	175.79	172.18	148.08	160.70	176.43	192.32
一株当たり株主資本 (円)	872.71	875.87	894.25	909.06	1,037.37	1,041.33	1,151.36	1,164.11	1,253.27	1,287.89

単独セグメントデータ

地区別売上高構成比

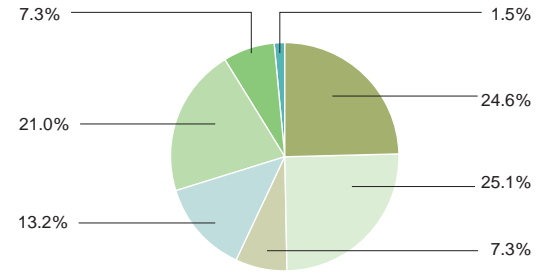
(平成15年4月期)



■ 東北・北海道 ■ 関西 ■ 中国・四国
■ 関東 ■ 中部 ■ 九州

業態別売上高構成比

(平成15年4月期)



■ スーパー ■ 問屋 ■ 自動販売機 ■ 直営店
■ コンビニエンスストア ■ 一般 ■ 大卸

自動販売機設置台数

(単位:台)

100,000

75,000

50,000

25,000

0

H11.4 H12.4 H13.4 H14.4 H15.4

営業拠点数

(単位:拠点)

200

150

100

50

0

H11.4 H12.4 H13.4 H14.4 H15.4

従業員数

(単位:人)

5,000

4,000

3,000

2,000

1,000

0

H11.4 H12.4 H13.4 H14.4 H15.4

連結財務諸表

連結貸借対照表

	単位:百万円	
	平成14年 4月期	平成15年 4月期
(資産の部)		
流動資産	60,355	65,832
現金及び預金	19,630	24,021
受取手形及び売掛金	18,223	18,957
たな卸資産	15,863	15,531
未収入金	5,062	5,350
繰延税金資産	1,011	1,296
その他	640	747
貸倒引当金	76	71
固定資産	32,417	31,893
<有形固定資産>	20,641	20,067
建物及び構築物	11,058	10,509
土地	8,110	8,123
その他	1,472	1,434
<無形固定資産>	805	766
<投資その他の資産>	10,970	11,058
投資有価証券	1,678	1,900
繰延税金資産	1,047	1,133
再評価に係る繰延税金資産	2,179	2,111
その他	6,303	6,088
貸倒引当金	238	175
資産合計	92,773	97,726

流動資産

現金及び預金が前期と比べて43億9千万円増加したこと、また売上高の増加に伴い受取手形及び売掛金が前期と比べて7億3千3百万円増加したことなどにより、流動資産は前期と比べて54億7千7百万円増加いたしました。

固定資産

有形固定資産につきましては、原料加工工場の建物や機械設備の取得等を行いました。新規取得価額以上に減価償却が進んだため、合計では前期末と比べて5億7千4百万円減少いたしました。無形固定資産の減少等と合わせて、固定資産は前期末と比べて5億2千4百万円減少いたしました。

	単位:百万円	
	平成14年 4月期	平成15年 4月期
(負債の部)		
流動負債	30,796	38,043
買掛金	16,772	16,986
短期借入金	1,552	6,653
未払法人税等	3,128	4,634
未払費用	5,832	6,278
その他	3,510	3,490
固定負債	9,414	3,002
長期借入金	6,653	-
退職給付引当金	1,624	1,872
その他	1,137	1,130
負債合計	40,211	41,046
(少数株主持分)		
少数株主持分	53	-
(資本の部)		
資本金	12,655	12,655
資本剰余金	13,002	13,002
利益剰余金	29,986	36,130
土地再評価差額金	3,034	3,102
その他有価証券評価差額金	117	72
為替換算調整勘定	216	471
自己株式	1	1,606
資本合計	52,508	56,679
負債、少数株主持分及び資本合計	92,773	97,726

短期借入金

長期借入金66億5千3百万円の返済期日が1年以内となったため、当期より短期借入金として表示しております。なお、この短期借入金につきましては、平成15年6月6日に全額返済を完了しております。

自己株式

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするために、自己株式16億3百万円(38万株)を取得いたしました。

なお、今回取得した自己株式の一部は平成14年9月2日付で発行したストックオプション目的の新株予約権の権利行使に充てる予定であります。

連結損益計算書

	単位:百万円	
	平成14年 4月期	平成15年 4月期
売上高	204,730	214,808
売上原価	103,037	107,868
売上総利益	101,692	106,940
販売費及び一般管理費	86,543	91,245
営業利益	15,148	15,694
営業外収益	388	161
営業外費用	1,119	976
経常利益	14,417	14,879
特別利益	4	847
特別損失	1,657	587
税金等調整前当期純利益	12,764	15,138
法人税、住民税及び事業税	6,225	7,479
法人税等調整額	212	344
少数株主利益又は少数株主損失()	1	0
当期純利益	6,753	8,003

連結剰余金計算書

	単位:百万円	
	平成14年 4月期	平成15年 4月期
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	13,002	13,002
資本剰余金増加高	-	-
資本剰余金減少高	-	-
資本剰余金期末残高	13,002	13,002
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	25,244	29,986
利益剰余金増加高	6,753	8,003
利益剰余金減少高	2,010	1,860
利益剰余金期末残高	29,986	36,130

売上高

「お～いお茶」ブランドが緑茶飲料初の5,000万ケース販売を達成したことなどにより、飲料関連事業の売上高は1千844億8千4百万円(前期比6.2%増)となりました。また、茶葉関連事業の売上高は281億円(前期比0.9%増)、その他の事業の売上高は22億2千3百万円(前期比29.3%減)で、連結売上高の合計では2千148億8百万円(前期比4.9%増)となりました。

利益

売上総利益は前期と比べ52億4千7百万円増加(前期比5.2%増)し、1千69億4千万円となりました。営業利益は前期と比べ5億4千5百万円増加(前期比3.6%増)し、156億9千4百万円となりました。経常利益は前期と比べ4億6千1百万円増加(前期比3.2%増)し、148億7千9百万円となりました。当期純利益は前期と比べ12億4千9百万円増加(前期比18.5%増)し、80億3百万円となりましたが、これは特別利益に退職金制度改定に伴う退職給付引当金取崩額4億9千4百万円計上したことや、投資有価証券に関連して発生した評価損および売却損が前期と比べて10億7千9百万円減少したことなどによるものです。

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	平成14年 4月期	平成15年 4月期
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	12,764	15,138
減価償却費	1,295	1,261
有価証券・投資有価証券評価損	1,333	22
退職給付引当金の増加額	1	247
売上債権の増加額	1,742	749
たな卸資産の減少額	1,574	310
仕入債務の増加・減少額	3,132	218
法人税等の支払額	7,004	5,973
その他	2,986	510
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,076	10,987
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券・投資有価証券の取得による支出	222	1,021
有形固定資産・無形固定資産及び 長期前払費用の取得による支出	1,316	965
その他	166	466
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,705	1,520
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額	150	-
長期借入金の返済による支出	1,090	1,552
自己株式の取得による支出	-	1,605
配当金の支払額	1,938	1,816
その他	0	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,178	4,973
現金及び現金同等物に係る換算差額	87	103
現金及び現金同等物の増加額	3,280	4,390
現金及び現金同等物の期首残高	16,350	19,630
現金及び現金同等物の期末残高	19,630	24,021

営業活動によるキャッシュ・フロー

当期の税金等調整前当期純利益は、前期に比べ23億7千4百万円増加いたしました。また当期は仕入債務の増加により、2億1千8百万円の営業キャッシュ・フローの増加となり、前期に比して営業キャッシュ・フローを33億5千1百万円増加させております(前期は仕入債務の減少、営業キャッシュ・フローの減少)。これは、前期に行った仕入債務支払期間短縮の影響が、当期になくなったことによるものです。

これらの理由により、営業活動から得られた資金は109億8千7百万円(前期比29億1千万円増)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

原料加工工場の建物および機械設備の取得等を行ったことにより、投資活動に使用された資金は15億2千万円(前期比1億8千4百万円減)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

自己株式取得のため、16億5百万円の支出を行いました。また、借入金の返済や配当金の支払等を行ったことにより、財務活動に使用された資金は49億7千3百万円(前期比17億9千4百万円増)となりました。

単独財務諸表

単独貸借対照表

	単位:百万円	
	平成14年 4月期	平成15年 4月期
(資産の部)		
流動資産	58,670	63,566
固定資産	34,257	35,272
＜有形固定資産＞	18,284	17,848
＜無形固定資産＞	618	600
＜投資その他の資産＞	15,355	16,823
資産合計	92,928	98,839
(負債の部)		
流動負債	30,520	37,686
固定負債	9,317	2,907
負債合計	39,837	40,593
(資本の部)		
資本金	12,655	12,655
資本剰余金	13,002	13,002
利益剰余金	30,354	37,226
土地再評価差額金	3,034	3,102
その他有価証券評価差額金	114	71
自己株式	1	1,606
資本合計	53,090	58,245
負債及び資本合計	92,928	98,839

利益処分

	単位:百万円	
	平成14年 4月期	平成15年 4月期
当期末処分利益	8,522	9,599
任意積立金取崩額		
固定資産圧縮積立金取崩額	4	4
合計	8,527	9,604
利益配当金	912	1,040
取締役賞与金	34	-
任意積立金		
固定資産圧縮積立金	-	10
別途積立金	5,800	6,800
次期繰越利益	1,780	1,753

(参考)伊藤園単独の一株当たり配当金

		平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
		4月期	4月期	4月期	4月期	4月期
一株当たり配当金	中間	15円	17円50銭	17円50銭	20円	20円
	期末	20円	17円50銭	22円50銭	20円	23円
	年間	35円	35円	40円	40円	43円

単独損益計算書

	単位:百万円	
	平成14年 4月期	平成15年 4月期
売上高	201,911	211,495
売上原価	102,110	107,062
売上総利益	99,801	104,432
販売費及び一般管理費	84,361	88,393
営業利益	15,439	16,038
営業外収益	400	212
営業外費用	1,106	945
経常利益	14,733	15,306
特別利益	4	826
特別損失	1,625	585
税引前当期純利益	13,111	15,547
法人税、住民税及び事業税	5,981	7,184
法人税等調整額	198	360
当期純利益	7,328	8,723
前期繰越利益	2,105	1,780
中間配当額	912	904
当期末処分利益	8,522	9,599

単独キャッシュ・フロー計算書

	単位:百万円	
	平成14年 4月期	平成15年 4月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,522	11,335
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,366	2,735
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,178	4,973
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	5
現金及び現金同等物の増加額	2,988	3,620
現金及び現金同等物の期首残高	15,516	18,505
現金及び現金同等物の期末残高	18,505	22,125

会社の概要

(平成15年4月30日現在)

会社名

株式会社 **伊藤園**

英文社名

ITO EN, LTD.

URL

http://www.itoen.co.jp

本 社

東京都渋谷区本町3丁目47番10号

設 立

昭和41年8月22日

資本金

12,655,340,000円

従業員数

4,018名

支店、営業所および出張所

全国26地区187拠点

直営店(専門店)

全国120店舗

地域および店舗数

東京都26店、神奈川県33店、埼玉県21店、
千葉県19店、群馬県3店、栃木県3店、茨城県13店、
長野県1店、兵庫県1店

工 場

静岡相良工場

(静岡県榛原郡相良町女神21)

浜岡工場

(静岡県小笠郡浜岡町新野3406-4)

福島工場

(福島県福島市荒井字河原畑6-1)

研究所

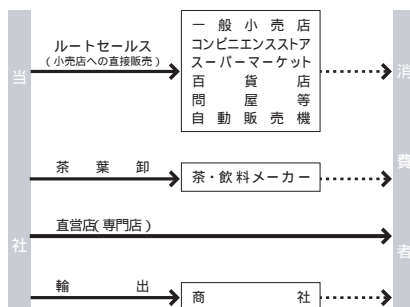
中央研究所

(静岡県榛原郡相良町女神21)

連結子会社の状況

会社名	資本金	持株比率	主要な事業内容
伊藤園産業株式会社	300百万円	100.0%	茶類製造販売、貨物運送取扱事業
株式会社沖縄伊藤園	10百万円	100.0%	飲料、茶葉販売
株式会社伊藤園関西茶業	10百万円	100.0%	緑茶、麦茶、進物用製品製造販売
ITO EN (North America) INC.	2,000万US\$	100.0%	飲料、茶葉製造販売、アンテナショップの経営
ITOEN (USA) INC.	2,150万US\$	100.0%	飲料、食品製造販売
ITO EN AUSTRALIA PTY. LIMITED	800万A\$	100.0%	緑茶製造販売

当社の販売方法



地区別営業拠点



株式の状況

(平成15年4月30日現在)

会社が発行する株式の総数

80,000,000株

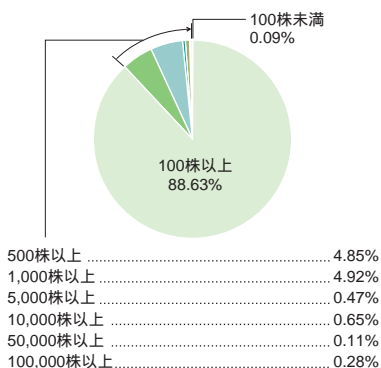
発行済株式の総数

45,606,190株

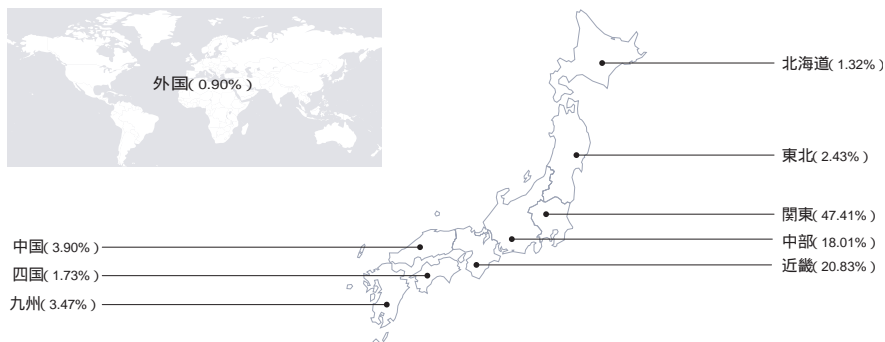
株主数

22,693名

所有株式数別株主数比率



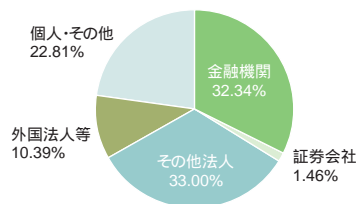
地域別株主数比率



大株主

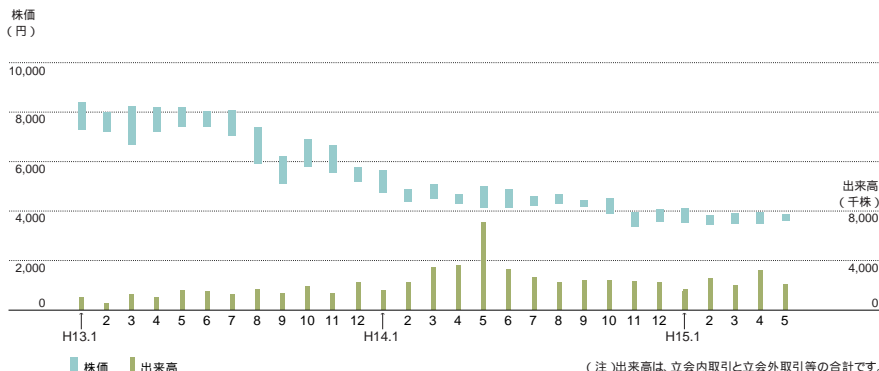
株主名	持株数	持株比率
グリーンコア株式会社	10,086千株	22.11%
財団法人本庄国際奨学財団	2,600	5.70%
株式会社りそな銀行	2,260	4.95%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,986	4.35%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,913	4.19%
本庄八郎	1,471	3.22%
モルガン信託銀行株式会社(非課税口)	1,161	2.54%
野村信託銀行株式会社(投信口)	833	1.82%
UFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)	579	1.27%
伊藤園従業員持株会	553	1.21%

所有者別株式数比率



(注)自己株式380,646株(0.83%)は、「個人・その他」の欄に含めて記載しております。

株価推移



(注)出来高は、立会内取引と立会外取引等の合計です。

役員

(平成15年7月29日現在)

代表取締役社長 本庄八郎
代表取締役副社長 本庄大介
取締役副会長 小田順一
取締役副社長 荻田 築
取締役副社長 江島祥仁
取締役副社長 橋本俊治
専務取締役 下田 淨
専務取締役 伊藤 弘
専務取締役 渡辺 實
常務取締役 早坂 功

常務取締役 木村吉久
常務取締役 斎藤昭一
常務取締役 小林義雄
常務取締役 社 三雄
常務取締役 中村安隆
取締役 三國 薫
取締役 山崎英雄
取締役 川相貴由
取締役 廣瀬 昭

取締役 辻田忠治
取締役 田口 寛
取締役 本庄洋介
取締役 本庄周介
取締役 岡田 勉
常勤監査役 森 泰男
常勤監査役 宮崎晃一
監査役 高澤嘉昭
監査役 佐藤利宏

株主メモ

決算期 毎年4月30日(年1回)
配当金 利益配当金は、株主総会の決議により毎年4月30日の最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主または登録質権者にお支払いします。また、中間配当を行う場合は、取締役会の決議により毎年10月31日の最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主または登録質権者にお支払いします。
定時株主総会 毎年7月下旬
基準日 4月30日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告します。
名義書換代理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵便番号168-0063)
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
電話 03(3323)7111(代表)
同取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公告掲載新聞 日本経済新聞

(お知らせ)

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求、配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。

株主優待制度

1. 対象株主および優待内容

毎年4月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主のうち、

- ① 所有株式数100株以上1,000株未満の株主に対し、2,000円相当の自社製品を贈呈いたします。
- ② 所有株式数1,000株以上5,000株未満の株主に対し、3,000円相当の自社製品を贈呈いたします。
- ③ 所有株式数5,000株以上の株主に対し、5,000円相当の自社製品を贈呈いたします。

2. 贈呈予定時期

毎年1回7月下旬に贈呈いたします。

自然を私に。自然のままに。

七代目 市川新之助

おいしいお茶は、

自然が育んだ、恵みいっぱいのお茶を使用。

素材がいいから

香りも、味も、ごまかさない、無香料・無調味。

まるごと、

自然の恵みそのままのおいしさです。

これが、
お茶。

〈無香料・無調味〉



※お茶の飲用は、お茶の産地を認めてください。

